



院曹たちと一緒に甲子園にいきたいと松本投手(聖望)

夏の舞台へ 駆けあがれ

ぶんスポ

第9号

燃える地元勢

響く金属バットの音、白球を追いかける飯能。日高球児たちの夏がやってきた。聖望学園、飯能高校、飯能南高校、日高高校の4校は最高の舞台を目指して、熱い闘志を燃やす。初戦対戦相手と試合日程は次の通り。▽聖望学園 7月11日午後12時から所沢航空球場で越谷総合と対戦▽飯能南 7月11日午前10時から所沢航空球場で武蔵越生と対戦▽飯能 7月13日午後12時半から越谷市民球場で越谷西と対戦▽日高 7月13日午前10時から川越初球場で川越と進修館の勝利と対戦。

望 春の雪辱果たしに あの栄光を再び



菊池主将 岡本監督

強豪校として全国に名を轟かせる聖望学園は、Aシリーズで大会へ挑む。今年昨年のチームに比べてポテンシャルは低いと評されるが、春季大会準優勝、関東大会初戦突破と確実に結果を出している。「先輩たちが積み上げてきた栄光を自分たちが取り戻したい」と目指す先はあの夏の舞台だ。昨年秋季大会ではまさかの地区予選敗退。厳しい冬の決戦へとコマを進めた。本来ならば春の決勝は両校とも関東大会出場を決めているが、互いに一歩も譲らぬ攻防で延長11回に及ぶ激闘の末、後一歩届かず涙を吞んだ。関東大会では、初戦の神



熱い闘志を燃やす聖望勢

戦い挑む各校選手 (聖望、飯能南は2、3年生のみ)

聖望学園 (秩父荒川、上野寛太(目黒第九)、太田優人(狭山西)、菊池倫徳(鶴ヶ島)、小泉峻一(八潮大原)、小泉徳朗(大間瀬沢)、小金井伸哉(足立第十四)、坂本一馬(大間金子)、柴谷将吾(八潮大原)、玉谷健太(日の出平井)、津田猛智(大阪寝屋川第九)、徳永真之(練馬大泉北)、中里直人(聖望)、中村郁人(飯能西)、中村碧聖(関西学院千里国際)、瀬一樹(坂戸住吉)、松並野幸大(坂本)、山田高輔(飯能加治)、横倉幸喜(八潮)、綿貫宗一郎(飯能第一)、日影大聖(聖望)、寺本太誠(大間金子)、有馬陸斗(八王子浅川)、出野慎也(嵐山玉ノ岡)、小沼稜(杉並富士見丘)、瀧澤俊幸(大間金子)、中村美優(青梅西)、石井孝宣(飯能第一))

飯能高校

(梅本康平(飯能第一)、宮本昌弘(日高武蔵台)、伊藤一航(大間野田)、荒幡哲治(大間黒須)、佐藤和希(飯能加治)、2年 佐々木柊人(飯能原市場)、長谷川直樹(大間武蔵)、村田漢祐(飯能吾野)、平沼恭介(大間黒須)、高橋ジェシー(飯能第二)、高橋隆平(飯能第二)、西川和磨(大間黒須)、西川和磨(大間黒須)、吉田飛佑雅(大間金子)、藤沢、宮城敦史(所沢東)、吉田飛佑雅(大間金子)、阿部摩輝(朝霞第一)、石井日和(大間黒須)、磯本将司(狭山入間)、太田和希(大間武蔵)、岡野史(飯能加治)、川鍋勇也(飯能西)、倉本翔(飯能第一)、西條輝巳(飯能第六)、清水陸(大間野田)、鈴木陸(日高萩中)、津山直樹(飯能第六)、中村佑太郎(飯能第一)、町田泰洋(飯能第一))

日高高校

(高橋拓也(川越初雁)、2年 棚田陽平(所沢山口)、吉田一稀(川越霞ヶ関西)、滝澤隼人(大間野田)、小野拓海(川越霞ヶ関西)、1年 野村将太(川越霞ヶ関東)、小島峻太(日高高麗)、小澤陽介(日高萩北)、坂上智実(日高萩北)、小林政喜(鶴ヶ島西)、原田州平(川越霞ヶ関西))

飯能南 全員野球で勝利へ 恩師に精進誓う



加藤主将 岸野監督

飯能南は打撃陣の強さが武器。岸野光男監督は「チーム内の雰囲気も良く、ここ数年で最高のチーム」と評す。飯能西中出身の加藤主将、川上拓也副将の2人の柱選手を中心に順調な仕上がりをみせる。3年14人、2年14人、1年20人計48人。昨年秋季大会では2回戦、ベスト8の川越工業相手に善戦し、負けはしたものの確かな手応えを感じたという。チームの要である加藤主将は捕手、4番としてチームを牽引し、チームメイト、監督からの信頼も厚い。支える副将の川上選手はここぞというときに本領を発揮するチームのムードメーカー。また、レギュラーは飯能日高の地元「子」が多し、チームワークも抜群だ。加藤主将は「言葉でなく、行動でチームをまとめて

能 伝統校の意地 飯 一心団結で初戦突破へ



梅本主将 羽生監督

注目は地元・原市場出身の1年 吉川健人投手。カウンの取れる変化球を得意としている。羽生監督は「1年でまだムラはあるが能力のある投手」と評し、今後にも期待できるルーキーだ。また、4番を任される佐々木柊人選手も2年生。2、1年の追い上げで3年が刺激され奮起すれば、勝利へとつながると羽生監督。チームをまとめるのは梅本康平主将。チームについては「部活中はメリハリを持って取り組み、終われば大事に戦いたい」と話す。

高 長年の悲願達成へ 日 「自信持って挑む」



高橋主将 沖監督

伝統と歴史ある飯能高校。3年5人、2年4人、1年4人と計13人と少人数で狙うは初戦突破だ。同部の羽生拓監督は「足元をしっかりと見据えて一戦一戦大事に戦いたい」と話す。注目は地元・原市場出身の1年 吉川健人投手。カウンの取れる変化球を得意としている。羽生監督は「1年でまだムラはあるが能力のある投手」と評し、今後にも期待できるルーキーだ。また、4番を任される佐々木柊人選手も2年生。2、1年の追い上げで3年が刺激され奮起すれば、勝利へとつながると羽生監督。チームをまとめるのは梅本康平主将。チームについては「部活中はメリハリを持って取り組み、終われば大事に戦いたい」と話す。



チームワーク抜群2、3年メンバー



「往年の先輩たちの期待に応えたい」とメンバー



「初戦突破の夢を叶えたい」と日高ライン